

社会医療法人社団 愛有会

愛有会通信

令和4年1月 発行

Vol.10

通算 第229号



謹んで
新年のお慶びを
申し上げます

愛有会 基本理念

1. 地域包括ケア

私たちは、医療・看護・介護・予防・生活支援のサービスを通じて、地域と共に安全で安心して暮らしていける街づくりに貢献します。

2. 環境経営

私たちは、様々な環境への取り組みを責務と考え、職員全員で質の向上と環境負荷の低減に努めます。

3. 健康経営

私たちは、職員の健康保持と共に働き方改革を推進し、多様な人材が向上心を持って働き続けられるよう努めます。



新型コロナウイルスと 共存する世界

社会医療法人社団 愛有会

理事長

阿部 真也

久米川病院 院長

介護老人保健施設 久米川 施設長

2年続けて世界中がコロナに翻弄されました。

日本ではワクチン接種後に1,300人余りが死亡したと報告されました。因果関係は不明とはいえ、ワクチン拒否派を否定しきれません。しかし、いまだ対抗策はワクチンだけという状況では、ワクチン頼みとなるのもやむを得ません。

ワクチンが進んでいる国で70%台、遅れている国では30%台に足らず、経済格差がワクチン格差となり、ワクチンによる世界的な予防策の歩調は揃いそうもありません。

やっと経済活動の再開へと動き出した矢先、オミクロン株の出現と急速な拡大で、3回目の接種の前倒し、入出国制限、自粛へと逆戻りし、ついに第6波を迎えようとしています。こうなるとアルファ、デルタ、オミクロンで終わるとは考えにくくなります。

この一年で、物資の不足、物価上昇、経済の冷えこみ、コロナ後遺症や生活苦の人々が増え、ストレスによる心身の不調、虐待、自殺など多くの問題が発生しています。終わりが見えないとなると、これからの1年はどうなっていくのでしょうか。

10年以内に一度はパンデミックが起り、毎年のように気候変動による大規模災害が起り、発生が確実視される南海トラフ地震のことなど、全世界を被う自然界からの脅威を世界の国々はどのように受け止め対処するのか。世界は、内向き思考・分断・対立・競争から、協調・協力・助け合いに向かっていくことができるのでしょうか。

私たち愛有会は、住民の皆さんと年齢、性別、障害、生活環境の違いをこえてつながりを深め、共に助け合い、支え合う活動に取り組みます。



理事

浅野 孝幸
(法人事業部 室長)

あけましておめでとうございます。

一昨年から続いている新型コロナウイルス感染症への対策として、久米川病院では第五波の感染拡大時に回復期にある陽性者の転院を受け入れる医療機関として行政登録して地域医療を支援し、ワクチン接種に関しても市内の医療従事者や高齢者への接種に取り組みました。訪問看護ステーションはぎやまでは、医師会等と連携して、在宅で療養中の陽性者への訪問看護を担う事業所として活動を始めており、居宅介護支援事業所では感染拡大下も訪問支援の継続に努めました。

三愛病院では、昨年10月1日より療養病床(60床)の全てを介護医療院に基準転換して病院事業を廃止し、同時に、地域の外来診療を継続させるため、施設と併設する「三愛クリニック」を新規開設して地域診療を継続しています。

今後も愛有会では地域社会に必要とされる医療・介護ニーズに適応した事業運営に取り組んで参ります。引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。

新型コロナによるパンデミックで心身共に手一杯でした。しかし、ワクチンの基幹病院として、接種会場として、さらに他の接種会場への出務として行政と密に連携が行われました。リモート会議、リモート面会、リモート研修にも慣れてきました。発熱患者の受け入れとコロナ感染予防と手術を滞りなく進めているこの様子を2年前の移転時には想像もしませんでした。

そして、働き方改革のチャンスではないかと考えます。

国は生産年齢人口の減少による労働不足を多様かつ柔軟な働き方を一人一人が選べるような環境を整備していく事を目指しています。愛有会も高齢者や子育て等ライフステージに合わせ柔軟な体制に取り組んでいます。リモートワークはまだこれからです。介護の現場での長時間労働の解消は大きな課題です。介護現場でのAIの活用も見守りセンサーや眠りスキャンなどがあります。個別サービスに活かせる利用者との満足が介護者の遣り甲斐に繋がると信じています。規制だけでは実態は変わらないと思われます。介護に今一番必要な事は何か、老健の目的と個別サービスを考え、そこで多様な人が働ける環境を整備できないかと考えています。

本年も宜しくお願いします。



理事

田村 浜子
(久米川病院 看護部長)



愛有会 BCP への取り組み

BCPとは…?

BCPとは事業継続計画(Business Continuity Plan)の頭文字を取った言葉です。企業が、テロや災害、システム障害や不祥事といった危機的状況に置かれた場合でも、重要な業務が継続できる方策を用意し、生き延びることができるようにしておくための戦略を記述した計画書です。

1

策定の目的設定

基本理念や基本方針を振り返り、何を守るべきかを目標設定する

2

重要な業務と リスクの洗い出し

災害時、事業を継続するに当たって最も優先すべき事業を洗い出す
→想定されるリスクをすべて書き出す。

3

リスクに 優先順位をつける

リスクの発生頻度と深刻度を基準に順位をつける。
→BIA (ビジネスインパクト分析) を活用する。

4

実現可能な 具体策を決める

誰が指揮を執り、誰がその指示を受けて実際に行動するのかなどの緊急体制を構築する

さんあい介護医療院

さんあい介護医療院(旧 三愛病院)では東日本大震災後、早期にBCPの策定に取り組んできました。当時推奨されていた3日分の備蓄では、とても足りないことに気づかされ、他から一切の援助を受けることのできない「自助期間」を7日間とし、各種備蓄や対応策を定めています。昨今では、新型コロナの感染拡大を受け感染症に対するBCPも策定しております。

地震、火災、豪雨、大雪、感染症、どんな災害が起きようとも、ご入所者の命と生活を守り、事業を継続致します。



発電機



訪問看護ステーション はぎやま 指定居宅介護支援事業所 はぎやま・こはぎ

訪問看護と居宅介護支援事業所の合同で、災害に対応するための物品整備を進めています。現在、ヘルメット・長靴・軍手・スコップ・光源などの備品や長期保存できる水などを確保しています。

いざという時に備え、ご利用者様の連絡先一覧表をファイルし、迅速に連絡・訪問ができるようにしています。



災害用備品

久米川病院・介護老人保健施設 久米川

基本方針

1. 当組織の医師、看護師、技師、事務員など職員の安全を第一として対応する。
2. 災害拠点連携病院の役割に基づき、機能を維持し、災害拠点病院と連携して中等症者又は容態の安定した重症者を受け入れる。
3. 災害時の対応を速やかに行うために、平常時から当組織及び地域の災害医療体制の整備について積極的に取り組み、機能の維持継続又は早期復旧に最善を尽くす。また、独自に訓練を実施するとともに、地域の訓練等に積極的に参加する。
4. 災害拠点連携病院としての役割に鑑み、災害時に医療行為を通じて地域社会の復興に貢献する。

取り組み

- ・災害対策は毎月定例の「災害対策・BCP策定委員会」で検討しています。
- ・策定したBCPは必要に応じ改定すると共に、年1回委員会において総見直しを行います。
- ・このBCPを元に職員で災害対策訓練を下記の通り実施しています。

BCP計画書の概要

BCP計画書は、大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン（供給網）の途絶、突発的な経営環境の変化など、不測の事態が発生しても重要な事業を中断させない、又は中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示しています。

久米川病院では災害拠点連携病院として「①対応力の低下抑制②対応力の早期回復③対応力の増強④東京都の災害医療連携体制を活用した負荷の低減」の4点を挙げています。

活動実績・予定

院内訓練

2021年

4月 消火器・消火栓の取扱

5月 通報・伝達・避難

6月 安否確認

7・8月 医療救護所テント設営・
トリアージ

9月 トリアージ

10月～12月 火災初期対応

2022年（予定）

1月～3月 本部設置・運用

外部研修

2021年

7月 災害支援ナース養成
・更新

10月 火災報知盤操作

11月 消防設備取扱説明
災害支援ナース養成

2020年7月に認証されました



レジリエンス認証とは

政府の内閣国土強靱化推進室において、国土強靱化の趣旨に賛同しBCPに関する取組を積極的に行っている事業者に認証される制度。

久米川病院 介護老人保健施設 久米川

新役職者のご挨拶



(写真左より：武田事務長・八尋事務長・横尾看護部長・山本看護副部長)

事務長 武田 嘉朗

この度、服部事務長の後任といたしまして事務長に就任いたしました。

もとより身に余る重責ではございますが、当法人の理念であります、「地域と共に安全で安心して暮らしていける街づくりに貢献します。」のもと、患者様・利用者様はもちろんのこと、地域の皆様のお役に立てるよう粉骨砕身の努力を尽くす所存でございます。

今後は、地域包括ケアの視点から、在宅医療を含めた地域の見守り機能の強化が重要と考え取り組んでまいります。

事務長 八尋 裕子

地域の皆様に「久米川だから安心」「久米川で良かった」と思っていただけ病院・施設を目指していきたいと思っております。

そのために、職員ひとりひとりが力を発揮し、部署・部門を超えてのびのびと意見を出し合い、最大限のチーム力をもってサービスを提供できる職場環境を作っていきます。

医療・介護情勢がいかに変動しようとも揺らぐことのない様、組織発展のために尽力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

看護部長 横尾 藍

ここ2年間のコロナ禍において、地域の皆様の日常生活にも大きな変化が生じたと思います。

わたしたち職員は、多くの高齢の患者様や利用者様をお預かりしているため、最大限の感染対策を実施しながら日々業務に邁進しています。

回復期支援病院としての役割も果たせるように、様々な医療機関や介護施設と連携しています。

久米川病院・老人保健施設久米川が地域の皆様に必要とされるよう、職員一同、自己研鑽し質の向上に努めて参ります。

看護副部長 山本 恵視

当院が萩山町から本町へ移転してきて、あっという間に3年目に入りました。少しずつ地域の皆様とのかかわりが深まってきたと感じています。

昨年は新型コロナワクチンの接種会場として東村山市の皆様にご利用していただくと共に、多くの職員がワクチン接種に出動しました。

これからも救急医療を中心として、専門外来、健診、整形外科手術に力を入れ、地域の皆様の安心に貢献できるよう努めてまいります。

企業健診 ご紹介

当院では人間ドック・生活習慣病
予防健診・特定健診等の企業健診を
行っております。



安心かつ安全に健康診断を受けて
いただくために感染対策を徹底して
おります。

待合室にパーテーションを設け、
検査機器等受診者様毎に消毒を行
い、足踏み式の消毒液、使い捨てス
リッパを導入しています。



2019年10月の移転時に最新の検査
機器を導入しました。

(左：デジタルマンモグラフィシステム
AMULET Innvality)

(右：X線骨密度測定装置PRODIGY)



健康診断後のフォローアップにも力を入れています。要精密検査・
要治療の判定の方には追跡調査を行い、受診確認をしています。

また、受診者への健康に関する情報提供として、栄養や運動につい
ての当院オリジナルのパンフレットもご用意しています。



オプション検査にも対応しておりますのでお問い合わせください。

さんあい介護医療院 180床開設



院長
大川原 真澄

あけましておめでとうございます

昨年10月より三愛病院は、外来がさんあいクリニックに、入院はさんあい介護医療院になりました。医療の質は維持したまま、介護の質はさらに向上させ、より良い療養生活が送れるように努めてまいります。

昨年はコロナ禍の中、十分な面会もできず、行事も縮小を余儀なくされました。ご家族や利用者様には寂しい思いをされたと思います。ご家族が自由に利用者様に会い、話をし触れあうことがお互いにとって大切なことであると改めて痛感いたしました。

もうすぐ春が来て、庭には梅や桜が咲き誇ります。ご家族と利用者様とともにお花見ができる日が来ることを願っています。

今年もよろしくお願いいたします。



看護部長
川戸 美智子

院長
大川原 真澄

診療部長
竹下 政志

事務部長
服部 智美

新年あけましておめでとうございます。

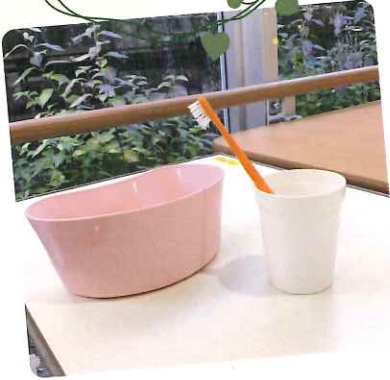
新型コロナウイルス感染症対策を強化して約二年間、ご家族様やご利用者様には、感染対策のために面会制限等で大変寂しい思いやご不自由をおかけすることになり、とても心苦しく感じております。そのような中、さんあい介護医療院・三愛クリニックに転換しましたが「さんあいの三つの愛」は変わらず、『仁愛・慈愛・敬愛』を基本に、これからも職員一同、ご利用者様の療養生活を安心して過ごして頂けるように日々努力してまいります。



看護部長
川戸 美智子



看護部・ 介護課の 取り組み



口腔ケアの取り組み



いつもキレイなお口を保つために、歯科医師・歯科衛生士からなる口腔ケアチームを発足し、指導・助言を受けながら適切な口腔ケアの実施に努めています。

キレイなお口で「おいしく食べ」「食事を楽しく」「元気になる」ことで日々の喜びに繋がっていきます。

抱えない介護の取り組み

「抱える」ことは、肩・腰・膝への肉体的負担であり、「抱えられる」側には、転落・転倒の危険と隣り合わせの不安な心理状態を生じます。

移乗用・移動用の福祉用具の使用により、双方の心身の負担軽減と安心・安全に繋がります。



アクティビティの取り組み

利用者の皆様の生活のうるおいと心身の活性化のために、レクリエーション介護士を3名配置し、「見る」・「聴く」だけの受動的なものだけではなく、「動かす」・「話す」・「歌う」・「考える」・「作る」など、潜在的能力が発揮されるように様々な工夫したレクリエーションを行っています。





訪問看護ステーション はぎやま

訪問看護ステーションはぎやま 所長 佐野 みゆき



あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、「今年はコロナウイルスが、インフルエンザと同じくらいになるといいなあ」と誰もが願っていると思います。しかし感染者が減ったとしても、感染対策は引き続きバッチリしなくてははいけません。冬季オリンピックも無事に開催されることを願い、テレビでエールを送りたいですね。

さて、昨年も研修は全てオンラインで、カンファレンスも殆どできないまま新規の受け入れを行いました。やはり事前に顔合わせがあるとないとでは、信頼関係の構築に少なからず影響があると思いました。退院後にいざ訪問してみると、病院では訪問看護の介入を了解していた方が、「まだ介入の必要はない」と断ることも…。リモートで良いのでカンファレンスはぜひ行っていただきたいと思います。

今年はどうなっていくのかまだ分かりませんが、以前のような行動様式に少しでも戻りたいものですね。

本年もどうぞよろしくお祈りします。



「カンファレンス」もリモートで行っています!!



重要性をひしひし感じながらも、新型コロナウイルスの影響でなかなか開催できない「退院前カンファレンス」。ウィズコロナの時代だからこそ、アナログな「はぎやま」から脱せねばと、パソコンを前に奮闘し、退院前カンファレンスもリモートで行っています。

はじめは話しかけるタイミングが上手くつかめなかったり、画像が出ずに苦戦しましたが、最近ではどの職員もすんなり(?)とできるようになりました。

ご利用者様の 手作りレジメが素敵です!

ご利用者様で英語に堪能な方がいて、看護師が訪問する度にミニレッスンをしてくれます。なんと御年97歳!

その際手作りのプリントを毎回用意しておいてくれるのですが、それがとっても素敵なんです!カラフルなイラストもご自身で描かれており、職員みんな楽しみにしています。広報誌でどうしても紹介したいとお話したところ承諾していただきました。

Thank you very much!!



指定居宅介護支援事業所 はぎやま

居宅介護支援事業所はぎやま 所長 高橋 佐知子



一昨年より新型コロナウイルスの影響で業務のあり方（訪問、研修、連携の取り方等）が変わってきています。ここ1~2年で多職種やケアマネージャー同士でも顔を合わせる機会がほとんどなくなっている状況です。

以前は年に何回かは研修で顔を合わせて情報交換もできていたのですが、現在では全くなくなっており、今となっては大事な時間だったなと改めて感じています。ZOOMの研修も増えて少しは慣れてきたと思いますが、まだまだやりにくさはあります。

グループワークについても直接顔を合わせての意見交換と違って発言のタイミングも難しく、活発な話し合いはできなくなっていると思います。直接会うことによってその場の空気や雰囲気でも話せることも変わってくるので、顔を合わせて話すことの大切さも実感しています。

施設の見学や訪問、大人数での担当者会議等、今まで当たり前に行ってきたことができなくなり、色々なやりにくさがあります。その中でもできることを続けて、1日でも早く状況が落ち着き、以前のように対応できる日が来ることを願っています。



指定居宅介護支援事業所 こはぎ

居宅のBCP元年 居宅介護支援事業所こはぎ 所長 立石 あさひ

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍が続く中ではありますが、皆様におかれましては良き新年を迎えられていることとお祈りしております。

昨年10月、東京で震度5弱、この多摩地区でも震度4を観測する地震が発生しました。心臓がドキドキし、その時は子供たちに一時避難場所や災害伝言ダイヤルのことを付け焼刃のように話しましたが、喉元過ぎればなんとやら…ああ、これではいけないと思いつつ、どうにも緊張感を継続できずという状況を繰り返しています。

そんな折、2021年度の制度改正に盛り込まれたBCP（事業継続計画）対策の研修を受ける機会がありました。日常業務の洗い出しから時間経過に対応したリスクアセスメント、組織作りと管理体制、法人や地域との連携…とても細かく、根気のいる作業だということが良く分かりました。

大災害や感染症の蔓延など、日常が続けられなくなる事態は起きて欲しくないと思っています。でも残念ながらここ何年か毎日のニュースを見ていると、なにがしかの災害は必ず起きるもの、という前提で暮らしていかななくてはいけないと考えざるを得ません。

スタッフとその家族、職場と業務、ご利用者様と地域を守るためのこの取り組みは、地域の中のケアマネジメントの取り組みと深くつながっていると感じます。周りの方々の知恵を借り、法人、訪問看護、居宅はぎやまと協力して継続可能で実践的なBCPを策定できるよう取り組んでいきたいと思っています。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



愛有会 運営事業所

久米川病院

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-393-5511**

介護老人保健施設

久米川

通所リハビリテーション

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-313-0710**

訪問看護ステーション

はぎやま

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-396-7700**

指定居宅介護支援事業所

はぎやま

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-391-3007**

指定居宅介護支援事業所

こはぎ

東京都東村山市栄町 2-10-51
NSビル 107 2階
TEL. **042-391-3021**

三愛クリニック

東京都八王子市宮下町 377 番地
TEL. **042-691-4111** (代表)

さんあい 介護医療院

東京都八王子市宮下町 377 番地
TEL. **042-691-4111** (代表)
TEL. **042-691-4131** (相談室直通)



社会医療法人社団 愛有会

愛有会通信

■発行者／東京都東村山市本町4-7-14
社会医療法人社団 愛有会
TEL.042-390-2033
<http://www.aiyukai.jp>